

# 公園をみる・観る

## 公園は花盛り ～匂い馥郁と～

自生植物の多い公園は、春を待ちかねていた小さな草達が2月下旬ころから花をつけはじめ、春を先取りしたい方にはお勧めの散策コースとなっていた。その可憐な春告げ草たちの開花レースも一段落し、今は樹木たちが花の季節を迎えた。いろんな木々が花を競い芳香を放っていて幸せな気分にしてくれる。

まずシャリンバイ。和名では車輪梅と書く。葉や小枝が輪状に出ていてその中心に固まって咲く花の形がウメに似ていることから名づけられた。この時期、白くて中心に紅をさしたような花

をつけ甘い香りを放つ。バラ科の仲間と聞けばこの芳香も納得。2010年日本造園学会関東支部大会で「香りの樹木225選」が提案された。5m以上離れても香る樹木がランク①でクチナシ、キンモクセイ、ギンモクセイ、ロウバイなどの名前が上がっている。ランク⑤までである中でシャリンバイはランク③の1m離れていて香る樹木とされている。余談ながら可笑しいと言うか納得というか、ちょっと気の毒に思ったのはランクの6番目に悪臭の項目があり、シキミ、ハマヒサカキ、クリ、シイノキなどの名前が並んでいたことだ。

シャリンバイと同時期にやはり白い花をつけるトベラも香りの樹木ランク③に格付けされている。しかしトベラは、花は確かに芳香を発するが葉枝や根に異臭があるため節分に魔よけとしてイワシの頭などと共に戸口に掲げられたと聞くと、匂いが良いと喜ぶ気持ちも半減するような気がする。もっとも魔よけに戸口にかけたことから扉の木→トベラという名になったと本で読んだ。とにかく今、公園はシャリンバイとトベラの馥郁とした香りに包まれている。

香りは無いがセンダンの花も咲いた。淡い藤色で円錐状に咲く。昔から「梅檀は双葉より芳し」といわれているが、このセンダンは白檀のことで公園のセンダンとは関係ない。公園のセンダンはトリもその実を好まないし、古くは果汁からヒビ、アカギレ、シモヤケなどの薬をつくり、新しくはインフルエンザウィルスの死滅実験に借り出されているというから薬用として期待されているのだろうか。

公園から帰り際、車に乗る前にちょっと東側の職員専用駐車場の方へ目を転じてみると、鮮やかなエニシダの花が満開、マメ科の黄色い花房が初夏の光を受けて今を盛りと咲きこぼれている。この金襴豪華な花の花言葉が「謙遜」「卑下」だとか、なぜだろう？ 西洋ではエニシダの枝で箒を作った。魔女もエニシダの枝で作られた箒に跨って空を飛んだのかなあ。

梅雨入り前のひと時、公園は花々の香りに包まれてイトトンボを育み、オオヨシキリの臆面もない縄張り宣言に苦笑しながら、生氣満ちる夏の訪れを待っている。(土×土)

